

令和2（2020）年度事業報告

東北芸術工科大学は、教育、研究、産学官連携等の取り組みを通して、大学の本質を社会に訴求し、地域になくなくてはならない大学となることを目指している。令和2（2020）年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、従来の大学運営や授業形態の見直しに迫られ、あらゆる事業において大幅な計画変更と新たな対応に迫られる1年間となった。その中で、教職員が一丸となって感染拡大を留めつつ、本学ならではの授業方法を開発し、学生の満足度を下げることなく質の高い教育の維持に尽力した。

こども芸術大学認定こども園においても、園児や職員への感染対策を徹底しながら対応策を見出し、感染者を出すことなく通常の教育・保育を継続し、高い満足度を維持することができた。

1 教育への取り組み

（1）学部教育

新学期のスタートを目前にしてコロナ禍における対応に迫られ、実施可能な授業の在り方を模索した結果、前期開講の全授業をオンラインにて実施することを4月9日に決定した。授業開始を5月中旬と定め、それまでの約1か月で演習や実習が多い本学におけるオンラインでの授業方法を教職協働で設計した。

オンラインによる授業の評価を行うため、従来は学期末に実施している「授業改善アンケート」を授業開始3週目に「オンライン授業初期段階アンケート」として学生・教員の双方に対して実施し、不安や不満を解消すべくきめ細かなフィードバックを行った。結果として、前期末に実施した「授業改善アンケート」においては、全学の平均評価点が前年度結果を上回り、オンラインにおいても教育の質を維持向上させることができた。

後期からは、感染対策を徹底することで演習を中心に対面授業を再開し、オンライン授業と並行しての授業運営を展開した。後期末に実施した「授業改善アンケート」においても全学の平均評価点が前年度平均を上回り、学生の評価を得られた。学内での感染者の発生を防ぎつつ、より満足度の高い授業が提供できた。

10月には地元産業界から本学の取組みについて意見・評価を受けることで、教育や研究、人材育成、地域貢献の更なる向上を図るとともに、社会に役立つ大学づくりを推進する「地学連携懇話会」を開催した。本学と連携協定を結んでいる「山形新聞社」「山形銀行」「ヤマガタデザイン」の3社の担当者と、芸術学部長、デザイン工学部長、基盤教育研究センター長、就

職部長とが意見交換を行った。先行き不透明な時代にあって、「課題がどこにあり、その解決のためにどのようなプロセスをたどったのか説明できる人材の育成」が求められているとの認識で一致した。本学に対しては、即戦力のみならず、「将来的に力が発揮できる」人材の育成に対する期待が寄せられた。

2月に開催した卒業／修了研究・制作展では、「かえる卒展」をテーマとして行った。これまでの会場での展示に加えてオンラインにて配信を行う「変える卒展」として、またインターネットで作品を購入できる「買える卒展」として進化させ、来場者数に制限を設けながらも高い評価を得て、新たな卒展の可能性を見出すきっかけになった。

(2) 学生支援

多様な学生が就学上の障壁を取り除き、学業に専念できるような学生生活支援を実施している中、コロナ禍による精神的不安を抱える学生が増加したことにより、更なる支援が必要となった。学生支援ワーキンググループにより支援体制の整備を進めつつ、学科教員による学生面談や、学生相談室の臨床心理士による学生相談においても対面とオンライン双方による対応にて学生支援に臨んだ。

コロナ禍における経済的支援として、下記の取り組みを行った。

① 修学支援に向けた授業料の一部返金

学生が在宅での学修に活用できるよう、授業料のうち施設使用料相当額を「リモート授業」に対応するための在宅学修支援金として2,376人に対し総額76,004千円（学生1人当たり約30千円）を返金した。財源は、事業の見直しや経費の削減などを通じて充当した。

② 緊急短期貸付制度の新設

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、世帯収入又はアルバイト収入の減少により大学での学修の継続が困難になっている学生を対象に、緊急支援措置として無利子による短期貸付制度を新設した。当該制度には2名の学生から申請があり、次のとおり貸付を行った。

i) 対象学生：東北芸術工科大学 学部生・大学院生（休学者を除く）

ii) 貸付額：10万円

③ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学費減免制度の新設

新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急変し、経済的に修学困難となった学生を対象に、経済的な理由で学びを諦めることのないよう、学生支援策の一環として大学独自の学費減免制度を新設し、2名の学生の減免を実施した。

i) 対象となる授業料：令和2年度後期授業料

ii) 減免額：20 万円

iii) 採用人数：15 人以内

(3) 進路・就職状況

前年度末からのコロナ禍の影響を受け企業説明会などのイベントが中止になるなど、採用に直結する活動が制限された。就職未内定学生の就職活動に対する不安や悩みを解消し、活動を活発化させるため、前期には「Web による就活対策講座の開催」「就活悩み相談室の設置」「学内合同企業説明会の開催」の施策を講じた。後期には年度内に内定可能性のある学生を抽出し、進捗度を学科教員とキャリアセンター職員が共有し、個別に内定獲得に向けた具体的な指導を行うとともに、大学後援会企業の求人情報を定期的に収集し、面接会を学内にて開催するなど、積極的に企業と学生の接点づくりを行った。また、学内に「就活・Web 面接用スペース」を確保し、学生が集中して Web 面接が受けられるような環境を整備した。

結果、8 月末時点で 50.3%（前年同日比-20.6 ポイント）であった全学の就職率は、5 月 1 日時点で 88.7%（前年同日比-0.8 ポイント）まで改善された。

(4) 学生募集状況

令和 2（2020）年度より、国が主導する大規模な大学入試制度改革の実施に伴い、本学でも新入試制度での運用を開始した。併せて Web 出願システムを整備し、受験生や保護者、高校教員の出願手続きでの負担を減らして出願を促進し、トラブルなく試験を実施している。

また、オープンキャンパスや総合型選抜入学試験〔専願型〕（旧 A0 入試）では、新型コロナウイルスの感染防止対策が必要となり急遽オンラインでの実施に切り替えるなど、短期間での実施方法の見直しが求められたが、その後の入学試験については感染防止対策を十分に考え、マニュアルも整備したうえで、当初予定していた試験会場において滞りなく実施した。

学生募集活動ではコロナ禍により高校生との接触機会が激減したが、ホームページにおける本学の魅力を伝えるための入試コンテンツの見直しや、人数を限定した見学イベントの実施など、工夫を重ね対応にあたった。

令和 3（2021）年度入試結果は、最も重要な入試である総合型選抜入学試験〔専願型〕（旧 A0 入試）では 451 名の出願（昨年比 93.3%）で、そのほか、前述の通り今年度からの入試制度の変更に伴い総出願者数は 2,317 名となった。なお、入学定員 593 名に対し、597 名の新入生を受け入れ、入学定員充足率は 100.6%を達成し、私立大学の 3 割以上が定員割れを起こすなか引き続き堅調に入学者を獲得できている。

(5) 大学院教育

大学院授業においても対面とオンラインを併用し実施したが、個人の研究・制作活動が中心となる大学院生については、第1次緊急事態宣言の解除を経て学部生に先行して学内施設の利用を認めた。

コロナウイルス感染症対策のため、フィールドワーク研究活動や展示活動などの多くは中止となったが、全研究領域の学生が集まり、レジュメを書き上げ、展覧会・学会形式で中間発表を行う本学大学院の特色でもある「大学院レビュー」(年2回実施)は、コロナ禍によりオンラインに切り替えて実施した。その結果、「論理的にわかりやすく伝えること」をより発表者に意識させることができ、好影響をもたらした。また、授業のオンライン化により、デザイン工学専攻の一部のオンライン授業を学部生にも聴講可能とすることで、大学院進学希望の動機付けを図った。

(6) 式典の実施

新型コロナウイルス感染防止のために延期していた令和元(2019)年度卒業式を、後期授業開始に合わせ10月3日(土)に実施した。卒業式は完全オンライン形式にて行い、約6割の卒業生が全国から参加した。全体の式典終了後には、学科・コースに分かれてオンラインでの懇親会を行った。

また、中止となった令和2(2020)年度入学式の代替行事として、卒業式同日の10月3日(土)に能舞台において、学部別に「新入生の集い」を行った。理事長及び学長からのメッセージ、新入生あいさつに続けて、山形交響楽団の金管八重奏による祝奏を披露し、新入生を激励した。

令和2(2020)年度卒業式は、多くの大学が中止とする中、感染対策を十分にとりながら、学部別に体育館において卒業生のみを参加させ実施した。会場となる体育館では座席間隔を確保するため保護者や来賓、教職員の参列を廃止し、YouTubeによるライブ中継を視聴してもらった。

2 こども芸術大学認定こども園

平成29(2017)年度に認定こども園として再スタートし4年目を迎え、定員76名の園児数に対して74名の在籍数となった。全国的に保育者の不足が継続する状況において、長くやりがいをもって働くことができる職員の育成を目的に、給与体系や評価方法を明示し、こども芸術大学人事給与制度の運用を開始した。

年度の当初から新型コロナウイルスの感染対策により保護者に対して通園の自粛を呼びかけ、家庭教育の協力を募った。全園児の通園が可能となった6月以降、感染防止策を打ち出し、飲食の方法、保護者の送迎や連絡方法、行事予定などを見直した。その結果、コロナウイルスのみならず、インフルエンザや他の流行疾患も例年より減少した。

保護者が参加する行事等は減少したものの、園での様子は ICT を活用し保護者に伝えるなどの工夫を重ね、年度末の園評価アンケート調査では、昨年度に引き続き「満足」の意見が9割を超えた。

3 産学・地学連携活動及び附置研究所の活動

本学では、地域社会や産業界との全学的な連携活動を通じて、多様な教育機会の提供を図るとともに、社会に対して際立った影響を与え続ける研究・社会貢献活動を展開している。

(1) 共創デザイン室

共創デザイン室を窓口とした産学連携事業においては、イベントの企画・運営に関する案件や学生によるフィールドワークの展開が必要な受託案件については実施が困難であるため減少したものの、全体としては48件（前年度比72%）の受託研究契約を締結した。また、教育的波及効果を高めるために、学科横断型の協働プロジェクトも積極的に展開した。

(2) 協定締結企業との連携

株式会社 IHI との連携事業では、コロナ禍の影響により、学生参加型のデザイン思考による新しいサービスや製品提案のワークショップは実施できなかったが、同社からの受託事業として、広報誌『IHI 技法』の表紙デザイン制作、ホームページデザイン制作及び開発品イメージ動画デザイン制作などに学生が参画した。また、同社と本学が共同で設置した I-ToLab. において発案された、「高等学校における AI 部」構想が具現化し、自治体や経済同友会の支援のもと県内11の高等学校で創部された。

(3) 文化財保存修復研究センター

文化財保存修復研究センターでは地域の文化財の保存修復活動を推進しており、今年度は26件（前年度比124%）の契約を締結した。また、20年計画で実施されている鶴岡市善寶寺の五百羅漢プロジェクトは6年目となり、鶴岡市の致道博物館創立70周年記念展にて修復の成果が展示されるなど、広く地域に情報発信がなされた。プロジェクトの特設ホームページを

立ち上げ、修復の様子を広く動画で配信した。

また、公開講座等の外部発信イベントは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い大半が中止となったが、3月には山形県立博物館と共催でオンライン公開講座を開催することができ、対面での公開講座1回の平均参加者を大きく上回る122名の参加を得た。

(4) 高大連携事業の推進

本学のデザイン思考のノウハウを活用した探究型学習研究大会も、オンライン形式に変更しての開催となった。それにより参加可能な地域が広がり遠方からの参加者も増加した。高校教諭を中心に200名を超える参加があり、そのうち約150名は新規参加者であった。主要5教科担当の高等学校教諭が65%を占めるなど、本学に対する美術教諭以外からのニーズも高まっている。また、山形東高、山形西高を中心にカリキュラム開発や教員研修、出張授業等による連携を継続展開した。文部科学省が進める教育改革と連動し、「デザイン思考を活用した探究型学習」の拠点化を推進した。

(5) 美術館大学センター

第4回目となる山形ビエンナーレは、新たに医師でありながら芸術・文化への造形が深い稲葉俊郎氏を芸術監督に迎え、新体制により「こころ・からだ・芸術」をテーマに開催した。これまでの市街地での実施方針を改め、大学構内及び市内の特設配信スタジオを拠点としたオンライン方式での開催に転換し、約180名の出展・出演者により160を超えるプログラムを配信した。その結果、会期中のプログラム視聴者は10万人を超えた。

また一部を除き、閉幕後もアーカイブ公開を続けており、4月末現在で約18.2万人の視聴者数を数え、地域と時間枠を超えた新しい芸術祭の在り方を提示することができた。

※4月末時点の人数を再記載する

4 デザセン

令和2（2020）年度は新型コロナウイルスの影響により開催を見送った。

令和3（2021）年度へ向けて応募要項をリニューアルし、その内容について高校教諭へ評価アンケートを実施した結果、高評価を得ることができたことから、次年度募集に向けての足がかりとなった。

5 施設整備事業

学生が快適かつ安全に学生生活を送るため、情報インフラ整備を含めた以下の施設改修工事や修繕等を実施した。

- (1) 池（北側）・滝などの各配管設備・防水改修工事
- (2) 本館キュービクル電源盤更新工事
- (3) 新実習棟 C（漆）・こども芸術大学劇場の空調改修工事
- (4) 学内無線 LAN 環境の更新。リモート授業に移行したことにより急遽、双方向通信アプリ「Zoom」を導入し、現在の最大帯域である 10Gbps 回線を敷設。
- (5) 防犯カメラの設置（本館・学生会館・図書館）

6 教職員の人事給与制度改革関連

事務組織の生産性の向上と職員の育成を目的として令和元（2019）年 6 月から導入した「職員人事給与制度」は、1 年間の仮配置運用を経て令和 2（2020）年 6 月に本配置を行い正式な運用を開始した。また、これに続いて令和 2（2020）年度は食育推進室職員（学食スタッフ）及びこども芸術大学認定こども園保育教諭にかかる人事給与制度改革を実施した。

食育推進室職員にかかる制度については事務局職員と同様に「役割等級制度」を軸とした「育成」「評価」「処遇」の各制度を体系的に整備し、6 月から仮配置運用を開始し、令和 3（2021）年 6 月に本配置を行う予定である。

職員の育成制度である SD 研修制度については、コロナ禍の影響によりすべてオンラインによる参加形態に変更となったものの、当初の計画どおり研修対象者全員が受講した。受講成果については受講者が各部署内にて報告を行うことで、本人に限らずより広く共有するように努めた。

教員については平成 24（2012）年度から導入している「教員ポートフォリオ」による業績評価制度を運用しながら、令和 5（2023）年度からスタートする新カリキュラムに対応した評価制度の在り方について検討会を組織し、見直しの作業を開始した。検討会は若手教員を中心としたメンバーで構成し、専任教員の職務体系の再編成、学科長・コース長の評価の在り方並びに組織（学科・コース）評価の在り方などを議題として制度設計を進めている。

7 私立学校法改正等への対応

学校法人による自主的な運営基盤の強化を図るとともに、設置する私立学校の教育の質の向上及びその運営の透明性確保を図るため、令和 2（2020）年 4 月に私立学校法の大幅な改正が行

われた。これに伴い本法人においても寄附行為の大幅な変更を行うとともに、役員報酬支給規程など所要の規程整備を行った。

なお、今回の法改正に伴い、役員¹の善管注意義務及び学校法人又は第三者に対する損害賠償責任が明示されたことから、そのリスクヘッジの一方策として「役員賠償責任保険」に加入した。

当該保険への加入については令和元（2019）年度第4回理事会（令和2年3月25日開催）にて承認されており、その補償内容は別紙のとおりである。

8 学生の活躍

【大手企業が主催するコンペでのグランプリ】

○グラフィックデザイン学科3年生がアドビ主催の産学連携型UI/UXデザインコンペ「Adobe College Creative Jam」でグランプリを受賞

(<https://www.tuad.ac.jp/news/award/3054/>)

アドビ株式会社主催の産学連携型UI/UXデザインコンペ「Adobe College Creative Jam」（2020年7月に実施）で、本学のデザイン工学部グラフィックデザイン学科3年生の演習「ビジュアルデザイン応用（UI演習・アイハラケンジ准教授担当）」を受講する16名の学生が参加し、宮野友里さん+村岡光さんペアがグランプリ、阿部朱夏さん+小川紗代さんペアが3位を受賞。

【若手アーティストの登竜門的アワードでの受賞】

○「アートアワードトーキョー 丸の内 2020」で3賞を受賞

(<https://www.tuad.ac.jp/news/award/2883/>)

丸の内、有楽町、大手町エリアを会場に、若手アーティストの発掘・育成を目的とした現代美術の展覧会「アートアワードトーキョー 丸の内 2020」で、本学大学院生の3名が受賞。

オーディエンス賞 青山夢（術中デモクラシー／Initiation Ceremony）

小山登美夫賞 土田翔（推本遡源／Probable origin）

フランス大使館賞 近藤七彩（奇ッ怪家具／curious Furniture）